

# 日本民家園 花便り 1月号 (2)

## ～冬の赤い実～



### ナンテン 南天

原家ほか

赤飯に添えられるナンテンの葉、江戸時代には「難転＝難を転じる縁起木」として鬼門に、「火災除け」として玄関前に、また葉で手を清める「南天手水(ちょうず)」として廁の側にも植えられました。果実は咳や喉に効く生薬です(写真)。



### マンリョウ 万両

鈴木家ほか

商売繁盛の縁起木。センリョウは千両、カラタチバナは百両、ヤブコウジは十両、アノドウシは一両という別名があります。果実が多いか少ないか、木が大きいか小さいかで万両・千両・百両・十両・一両と呼ばれたそうです。



### ヤブコウジ 藪柑子/十両

道祖神土手

江戸時代に大流行し、葉に斑(ふ)が入ったものや果実が白いものなど変わり種が珍重されました。明治時代に一大ブームが再燃、投機の対象となり一株数百円で取引されたものもあったとか。庶民の給料の平均が月 10 円から 20 円ぐらいの時のことです。



### アオキ 青木

太田家ほか

1860 年、園芸学者ロバートフォーチュンの訪日の目的は、アオキの雄株を入手すること。ヨーロッパの本種は全て雌株で「英国の厳冬やスモッグの中でも育成しているが、深紅色の果実がいっぱい実っているのを見た者は一人もいない」からでした。



### イイギリ 飯桐

奥門～工藤家

葉は長さ幅ともに 15 センチほどで、桐(キリ)の葉に似ています。昔はこの葉でご飯を包んだため「飯桐(イイギリ)」と呼ばれるようになったそうです。1 センチほどの果実のなかに 1 ミリほどの種子が 50～80 個も入っています。